

本メールマガジンは山梨大学 新技術情報クラブ会員の皆様へ最新情報をお知らせする目的で配信しております。
メール配信を希望されない方は「配信停止」とお書きの上、ご返信ください。

コーディネータコラム
社会連携・知財戦略室
知財マネージャー 永田 秋生

初めまして、社会連携・知財戦略室の永田秋生と申します。2023年7月に着任させていただき、学内の知財関係の業務を担当しております。前職は20年ほど電気通信機器メーカーの知財専門会社に勤務し、それ以前には特許事務所と別の電気電子機器企業に勤務しておりました。

本日は、特許法30条（新規性喪失の例外適用）の規定を通して体感した、企業と大学との文化の違いについて書かせていただきます。

事前に理解していたつもりではあったのですが、大学と企業との日々の知財活動で一番戸惑いを感じたことは、当該規定の利用頻度の大きな違いです。大学の場合は、研究者がそれぞれ異なる目標に向かって日々邁進しており、研究者生命を賭して研究成果をいち早く発表することを望んでいるので、当該規定を日常的に活用せざるを得ないことを、身をもって知りました。一方、企業では、当該規定の利用は事故扱いの如く認識されており、殆ど利用されておらず、研究者といえども組織内で課された目標を実現すべく、論文発表時期を調整する、或いは論文発表前に何とか特許出願を行うことが徹底されておりました。これは、当該規定の利用が、取得したい特許権に傷を付けることを避けたいという暗黙知が共有されていたからだと考えます。

ここで世の中に目を向けてみますと、社会状況の変化に起因して、産学連携の強化やスタートアップ創造などが求められておりますところ、上述しました両者の文化の違いは、扱う発明が優れた技術であっても連携の障害になるはずであり、企業の常識は大学の非常識とされる中で、この障害をなくすことはできないにしても、お互いの立場と文化の違いをよく把握して活動することが必要だと思えました。

このため、円滑な産学連携が実現するよう、現職の大学職員として、特許権が傷のない商品として社会に実装されるように、研究者との日々のやり取りに留意し、当該規定の適用を一件でも減らすべく、微力ながら活動させていただきたいと存じます。どうぞよろしくごお願い申し上げます。

インフォメーション 目次

- 01： プレスリリース (2 件)
- 02： トピックス (2 件)
- 03： イベント情報 (1 件)
- 04： 山梨大学特許公開情報 (2 件)
- 05： 事務局からのお知らせ

◆光で記憶を操る！

新たな技術「光駆動型ホスホリパーゼ C β 」を開発
光で細胞の脂質シグナルを自在に操り、記憶形成の強化に成功

大学院総合研究部医学域生化学講座第一教室の金然正特任助教、浜田駿助教、大塚稔久教授らは、東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター臨床医学研究所の渡部文子教授らと、光で細胞の脂質シグナルを自在に操る画期的な技術「光駆動型ホスホリパーゼ C β (opto-PLC β)」を共同開発しました。
本研究成果は、日本時間 2024 年 4 月 6 日に Cell Chemical Biology 誌に掲載されました。

詳しい内容については、下記 URL よりご覧ください。

<https://www.yamanashi.ac.jp/wp-content/uploads/2024/04/20240406pr.pdf>

◆マスト細胞を特異的に標的とする新しい抗アレルギー薬 MOD000001 の同定

大学院総合研究部医学域免疫学講座の中村勇規准教授、中尾篤人教授らのグループとアリヴェクシス株式会社は、種々のアレルギー性疾患の治療薬となり得る新しい低分子化合物 MOD000001 を開発しました。
この成果は、4 月 2 日に米国アレルギー学会誌である JACI:Global に掲載されました。

詳しい内容については、下記 URL よりご覧ください。

<https://www.yamanashi.ac.jp/wp-content/uploads/2024/04/20240411pr.pdf>



◆5 年ぶりに連続市民講座を対面で開催

本学は読売新聞甲府支局と共催で連続市民講座を開講しています。今年度は「知る喜び～ひと・くらし・けんこう～」をテーマに、5 年ぶりに対面方式により、様々な分野の講座を合計 10 回開催します。

4 月 20 日 (土)、大学院総合研究部生命環境学域の田中敦教授を講師として、
「ワーケーションとデジタルノマド～仕事と旅が両立する新しいスタイル～」と題した第 1 回講座を甲府東キャンパスで開講し、約 60 名が参加しました。

今後の講座予定・申込については

<https://www.yamanashi.ac.jp/social/378>
【連続市民講座のスケジュール】をご覧ください。

◆地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業の『ゼロエミッションみらいラボ』を建設中

現在甲府東キャンパスでは、文部科学省が公募した「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」に本学が申請し採択された事業である「ゼロエミッションみらいラ

ボ」の建設工事が行われています。

この建物は、本学の最大の強みであるクリーンエネルギー研究により、わが国のエネルギー供給構造の転換（グリーントランスフォーメーション、GX）における研究推進の司令塔となる拠点として、グリーン水素製造、次世代燃料電池開発や e-fuel 合成などグリーン

水素利用に関する世界最先端の研究を行います。

さらに、産官学共同研究および大学発ベンチャーのためにも利活用し、社会実装のための研究拠点として産業イノベーションを推進させ、山梨の持続的発展、更には「2050年カーボンニュートラル社会」の実現を目指します。

詳しい内容については、下記 URL よりご覧ください。

<https://www.yamanashi.ac.jp/48193>

■

■03 イベント情報 (1 件)

◆第 35 回アカデミックサロンのご案内

第 35 回アカデミックサロンを 2024 年 6 月 19 日（水）に、会場とオンラインでのハイブリッド開催いたします。

アカデミックサロンは間近で研究者の発表を聞くことができ、また研究者や参加者同士で情報交換、意見交換ができる技術交流の場です。

【開催日時、スケジュール】

日時：2024 年 6 月 19 日(水) 対面開催・オンライン参加も可能

第 1 部（対面・オンライン配信）

お話し聴講・意見交換 16:00～17:15

名刺交換等 17:15～17:30

第 2 部（対面のみ）

情報交換等 17:30～19:00

【第 1 部 交流会の内容】

テーマ：「電子部品の感性評価と音のアレイ信号処理を巡って」

講師：工学域・電気電子情報工学系 教授 小澤 賢司 先生

【費用】 飲み物代（第 1 部参加者） 500 円(当日徴収)

※山梨大学新技術情報クラブ会員は無料

お食事代（第 2 部参加者） 1,000 円(当日徴収)

（キャンセルは 2 日前までに）

【場所】 店舗名「アジュール」（甲府市北口 3-9-8 愛宕トンネル西）

場所／ホームページ参照 <https://www.asyle.jp/>

【参加希望者の連絡・メ切】

山梨大学・社会連携課 豊角 (ktoyozumi@yamanashi.ac.jp) まで以下を記載のうえ、6/14（金）までにご連絡をお願いいたします。

○ 企業団体（法人のみ）・氏名・アドレス

○ 第 1 部 会場参加・オンライン参加を明記

○ 第 2 部 参加・不参加を明記

詳しい内容については、下記 URL よりご覧ください。

https://a-salon.jp/news_salon_s/1347

■

■04 山梨大学特許公開情報 (2 件)

本学整理番号：P22-026
出願番号：特願 2022-128358 出願日：2022/08/10
公開番号：特開 2024-25148 公開日：2024/02/26
発明の名称：大腸菌由来の核酸増幅用プライマーキット及び大腸菌の存在を判定する方法
出願人：国立大学法人山梨大学
発明代表者：原本 英司 先生
発明の概要：

【要約】

【課題】人為起源の大腸菌を特異的に検出するためのプライマーキットおよび環境水中において人為起源の大腸菌の存在を判定する方法を提供する。

【解決手段】特定の塩基配列を有する10から30塩基からなる第一順方向塩基配列若しくはその等価塩基配列を含む第一フォワードプライマーと、特定の塩基配列を有する連続した10から30塩基からなる第一逆方向塩基配列若しくはその等価塩基配列を含む第一リバースプライマーと、を含む第一プライマーセット、及び、特定の塩基配列を有する連続した10から30塩基からなる第二順方向塩基配列若しくはその等価塩基配列を含む第二フォワードプライマーと、特定の塩基配列を有する連続した10から30塩基からなる第二逆方向塩基配列若しくはその等価塩基配列を含む第二リバースプライマーと、を含む第二プライマーセットを含む、人為起源の大腸菌を検出するためのプライマーキットを提供する。

<https://www.j-platpat.inpit.go.jp/c1801/PU/JP-2024-025148/11/ja>

本学整理番号：P22-027
出願番号：特願 2022-135338 出願日：2022/08/26
公開番号：特開 2024-31654 公開日：2024/03/07
発明の名称：構造体の製造方法及び構造体の製造装置
出願人：国立大学法人山梨大学
発明代表者：久保田 恒喜 先生
発明の概要：

【要約】

【課題】簡易な装置及び工程により、微細な貫通孔に均一に充填材を充填可能な構造体の製造方法及び構造体の製造装置を提供する。

【解決手段】本発明によれば、構造体の製造方法であって、充填工程を備え、前記充填工程では、貫通孔を有する貫通孔膜の第2主面側に、前記貫通孔を覆うように第2多孔質シートを配置した状態で、前記充填材を厚み方向に押圧して、前記貫通孔膜の第1主面側から充填材を前記貫通孔内に充填する、方法が提供される。

<https://www.j-platpat.inpit.go.jp/c1801/PU/JP-2024-031654/11/ja>

□ ■
■05 事務局からお知らせ

◆技術課題等、ご相談について

技術課題や大学の知恵を借りたいなど、ございませんでしょう

か。
会員会社様の持っておられる技術課題を伺います。
ご希望の会員様がございましたら、事務局までお気軽に連絡し
てください。

-
-
- 1) このメールの内容は、提供された会員様限りでご使用下さい。
 - 2) メールの内容については国立大学法人山梨大学が著作権を有します。
- □ ■
-
- □ ■